

南方熊楠邸

閑静な旧武家屋敷。田辺市中屋敷町の一角に南方熊楠の旧邸があります。熊楠は1916(大正5)年から1941(昭和16)年、享年75歳で亡くなるまでの25年間をここで過ごしました。

熊楠にとって邸は、単なる住居ではなく南方植物研究所という大切な研究の拠点でした。南方の名が冠された新種の粘菌「ミナカテラ・ロンギフィラ」の発見もこの庭の柿の木でした。柿の木や熊楠がこよなく愛した柿の木は今も、熊楠の活躍した昔と変わりのない姿で残され見ることができます。そのほか、好んで食した安藤みかんや熊楠が臨終の床で「天井に紫の花が咲いている」とつぶやいたセンダン(オウチ)の木などもその季節には庭の一角から芳香を放っています。

また、研究用具などの遺品も数多く、復元された建物に展示され当時のまま眼に触れることができます。

いまにも熊楠の息づかいが聴こえてきそうな熊楠邸を体感してみませんか。



◀膨大な資料を収蔵していた書庫

ミナカテラ・ロンギフィラを発見した柿の木▶



▼土に標本を収めていた書庫の2階



名前の柿の一字があり特別な愛着を包んでいた桐の木▶



◀内扉



▲顕微鏡を覗きやすくするため傾斜がつけられた研究用の杓

◀いりや顕微鏡などが置かれた書斎

近代日本において世界を駆け抜け、日本で初めてエコロジーの思想を提唱した科学者「南方熊楠」。

南方熊楠顕彰館

南方熊楠邸の隣に南方熊楠顕彰館があります。主に熊楠邸の書庫にあった膨大な書物や日記、資料、論文などを移し収蔵しています。

これら熊楠が遺した約25,000点に及ぶ資料は、いつでも閲覧できるようデータベース化を進めています。収蔵資料やその情報については2階のPCコーナーで検索、閲覧できます。また、研究目的等に限って事前の申し込みにより原資料の閲覧も可能です。

このほか、顕彰館では熊楠への理解を深めることができるよう、月例展や特別企画展を開催しています。さらには、各種講演会や南方熊楠顕彰会主催による熊楠ゆかりの地を散策する“南方を訪ねて”などのイベントも開催しています。

知られていないその人となりや先駆的な研究、さらにはエコロジストとしての南方熊楠の世界に触れてみてください。



◀25,000点以上の資料を収めた収蔵庫(1F)

▼約80人収容の学習室(1F)



▲熊楠の業績や交流を解説したパネルを展示した玄関ホール



▲所蔵資料の調査・研究室(2F)

▲交流・閲覧室(2F)

▼所蔵品の一部



採集道具



寄稿した雑誌



柳田泉男宛書簡



傍忘録